

葉貫磨哉先生略年譜

角 田 朋 彦 編

昭和六年（一九三一） 八月 四日 ○歳

福島県安達郡本宮町坊屋敷一番で、父葉貫勇山・母タケの二男（男二人女二人の四人兄弟の三番目）として誕生する。

昭和三年（一九四八） 四月 一六歳

福島県立安達高等学校に入学する。在校中はラグビー部に所属し、ウィングバックとして活躍した。先生はときおり、ラグビーに身を包んだ勇姿の写真を取りだし、その頃の思いを語られることがあった。

昭和二六年（一九五一） 三月 一九歳

福島県立安達高等学校を卒業する。

同 年 四月 一九歳

駒澤大学文学部地理歴史学科に入学する。

昭和三〇年（一九五五） 三月 二三歳

駒澤大学文学部地理歴史学科を卒業する。卒業論文のテーマは、「日明貿易史に於ける一考察」。そして学部時代の恩師は、岩井大慧・丸山二郎・藤井秀雄各先生らであった。

また、東京大学史料編纂所の玉村竹二先生の指導のもと、「禅僧参学渡海史料」の編纂に従事するようになったのも学部卒業後のことである。そしてこれが契機となって日本禅宗史の研究を始めたこと、先生は述懐されている（『中世禅林成立史の研究』「はしがき」）。

昭和三十一年（一九五六） 九月 一日 二五歳

駒澤大学文学部助手に着任する。この助手時代は、ほとんど無給であったとのことである。

昭和三二年（一九五七） 四月 二五歳

駒澤大学文学部講師兼助手となる。

昭和三三年（一九五八） 六月 二六歳

日本宗教史研究会会員となる。

日本仏教史研究会発起人の一人として尽力する。

昭和三五年（一九六〇） 四月 二八歳

法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程に入学する。

昭和三六年（一九六一） 二月 二九歳

同郷で幼なじみであった薫さん（昭和八年一〇月二六日生）と結婚する。

同 年 四月 二九歳

東京都立富士高等学校の非常勤講師として教鞭を執る。（同四二年三月）

昭和三六・七年頃 三〇歳頃

曹洞宗総本山の永平寺へ入山し、得度する。

昭和三八年（一九六三） 三月二三日 三一歳

法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程を修了する。修士論文は、「中世会津領に於ける禅宗諸派の形成―

特に外護者との関係を中心として―」である。

昭和四〇年（一九六五） 四月 三三歳

駒澤大学文学部専任講師となる。

東京都立一橋高等学校の非常勤講師として教鞭を執る。(同四二年三月)

昭和四一年(一九六六) 一月二日 三四歳

長男一樹さんが生まれる。以後、駒澤大学中世史研究会の面々が守り役や遊び相手、長じてからは家庭教師なども務めたと聞いている。

昭和四三年(一九六八) 四月 三六歳

東京都立一橋高等学校の非常勤講師として教鞭を執る。(同四四年三月)

同 年 一〇月 三七歳

東京大学史料編纂所教授玉村竹二先生とともに初めて平林寺に拝登する。以後、一九年の長きに亘って平林寺史の編纂に尽力する。

昭和四四年(一九六九) 四月 三七歳

駒澤大学文学部助教授となる。

昭和四七年(一九七二) 一〇月 四一歳

南島史学会会員となる。

昭和四八年(一九七三) 四月 四一歳

地方史研究協議会常任委員を務める(同四九年一〇月)。この時の事務局担当(俗称幹事長)は所理喜夫先生であった。

昭和五〇年(一九七五) 四月 四三歳

駒澤大学文学部教授となる。

昭和五四年(一九七九) 四月 一四日 四七歳

秦野市史編さん専門委員(古代・中世・社寺)を務める。(同六三年七月)

昭和五五年（一九八〇） 四月 四八歳

駒澤大学大学院人文科学研究科教授となる。

同 年 五月二一日 四八歳

新座市史編纂委員を務める。（同六二年一〇月）

同 年 一二月 四九歳

駒澤大学歴史学科主任を務める。（翌年三月）

昭和五六年（一九八一） 四月 四九歳

駒澤大学歴史学科主任を再び務める。（同五八年三月）

同 年 五月 四九歳

駒澤大学百年史編纂委員を務める。（同五八年三月）

同 年 六月 四九歳

埼玉県春日部市大沼に新居を構え、東京都町田市より引っ越しをする。先生は御自宅を「竜騰庵」と呼んでいた。

昭和五七年（一九八二） 七月 一日 五〇歳

墨田区文化財保護審議会委員を務める。

昭和五八年（一九八三） 四月 五一歳

駒澤大学歴史学科主任を三度務める。（翌年三月。連続四年四カ月、学科主任を務めた。）

昭和六〇年（一九八五） 四月 五三歳

駒澤大学史学会（現駒沢史学会）会長を務める。

昭和六三年（一九八八） 四月 五六歳

これより一年間、駒澤大学から国内の在外研究員を命じられ、茨城県立歴史館に留学する。

また、玉村竹二先生の後を受ける形で、鎌倉建長寺の建長寺史編纂委員を務める。

平成 元年（一九八九） 三月一七日 五七歳

学位請求論文「中世禅林成立史の研究」を駒澤大学に提出され、文学博士の学位を取得する。論文審査の主査は所理喜夫先生、副査は渡辺直彦・南和男両先生であった。

平成 二年（一九九〇）一〇月一五日 五九歳

板橋区史編さん委員会委員となり、同調査会古代・中世部会長として尽力する。（同二年三月）

平成 三年（一九九一） 四月 五九歳

駒澤大学大学院日本史学専攻主任を務める。（同五年三月）

平成 五年（一九九三） 二月 六一歳

『中世禅林成立史の研究』を吉川弘文館より上梓される。

同 年（一九九三） 四月 六一歳

駒澤大学大学院日本史学専攻主任を再度務める。（同七年三月）

平成 九年（一九九七） 四月 六五歳

駒澤大学大学院日本史学専攻主任を三度務める。（同一二年三月）

平成一二年（二〇〇〇）一月二日 六九歳

午後四時二五分、肺ガンのため逝去。道号諱は善戒磨哉。遺偈は「有生無生 仏界一輪 六十九年 心骨清涼」。駒澤大学に奉職して四四年。定年で退職するまで、残りわずか一年であった。

※この略年譜は、葉貫先生の書き遺された履歴書、先生の奥様からのお話、先生の著書『中世禅林成立史の研究』、そして折に触れお聞かせいただいた先生のお話をもとに作成したものです。履歴書の貸与や不躰な質問にも気持ちよくお答

えいただきました奥様には、心より御礼申し上げます。また、略年譜の作成にあたって助言をいただいた諸氏にも感謝する次第です。

葉貫先生の研究室に通い御指導をいただくようになったのは、編者が駒澤大学中世史研究会に所属し、先生が国内留学から駒澤大学に復帰された平成元年のことでした。それ以後十二年間に亘って、大学の授業や建長寺史のお手伝い、そして酒席でお聞きした先生の話は、歴史研究から人生経験など多岐におよぶもので、非常に中身の濃いものでした。まだまだ先生からは、お話を伺い、お教えを請わなければならぬことがたくさんありますが、今ではそれも叶うことができません。今はただ、葉貫先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。